

ESSENCE-Q-used as a screening tool for neurodevelopmental problems in public health checkups for young children in south Japan

(ESSENCE-Q—乳幼児健診での子どもの神経発達的問題をスクリーニングするツールとしての使用)

執筆者

Yuhei Hatakenaka, Hitoshi Ninomiya, Eva Billstedt, Elisabeth Fernell, Christopher Gillberg

概要

【背景】

発達障害のスクリーニングは、小児保健分野で重要な仕事となっている。ESSENCE（神経発達の診察が必要とされる早期徴候症候群）は、低年齢で見られる発達障害のすべてのタイプをカバーする考え方である。また、ESSENCE-Q（12項目、0点から22点までの範囲）は、これらの障害を早期に発見するツールとして開発された。本研究の目的は、日本の乳幼児健診場面におけるESSENCE-Qの妥当性を検証することである。

【方法】

ESSENCE-Qは、日本の小規模の市で、1歳6か月児健診（n=143）と3歳児健診（n=149）で母親、保健師、心理士が評価した。結果は、ESSENCEの臨床診断と照らし合わせて確認された。ROC（Receiver Operating Characteristic）曲線を描き、AUC（Area Under the Curve）を用いて比較した。また、最適なカットオフ値を探索的に検討した。

【結果】

1歳6か月児健診でのAUCは、母親0.72、保健師0.86、心理士0.82であった。高陰性的中率を示す最適なカットオフ値は3だった。3歳児健診でのAUCは、母親0.57、保健師0.82、心理士0.87であった。高陰性的中率を示す最適なカットオフ値は2だった。

【結論】

保健師と心理士のESSENCE-Qは、診断との関連があった。ESSENCE-Qがカットオフ値を下回る結果だったほとんどすべての子どもたちは、ESSENCEの問題/診断に当てはまらなかったと示唆された。